

洋上アルプス No.230

屋久島生態系モニタリング

屋久島北部の植生垂直分布調査(平成 22 年度)

●標高 1000 ㍉プロット

尾根部の急斜面(尾根直下の崖と岩棚)に設定。樹高 15 ~ 18 ㍉、胸高直径 50 ㍉以上のツガヤスギの大径木が保残。プロット内外には江戸時代に伐採されたと思われるスギの伐株があり、また風倒によると思われるツガの倒木が多く見られる。局所地形は急な尾根直下の複合斜面で、平均傾斜 46°。斜面方位は東向き、標高 1070 ~ 1080 ㍉範囲。

[高木層]スギ・ツガ・アカガシ・ヤマグルマにサカキ・イヌガシが混生。
 [亜高木層]ユズリハ・アカガシが多く、サカキ・ソヨゴ・ウラジロガシが混生し、個体数は少ないがクロバイ・ヒノキ・ナナカマドなども生育。

[低木層]サクラツツジ・ハイノキが多く、シキミ・サカキ・ユズリハ・ツガ・ヒサカキ・ヒメサカキが混生。個体数は少ないがヤマグルマ・スギ・アセビ・ヤマシグレ・アカガシ・ウラジロガシ・マテバシイなども生育。

[草本層]サクラツツジ・ハイノキ・ホソバコケシノブが多い。個体数は少ないがツガ・スギ・ヤマグルマの稚樹、ナナカマド・ヒメサカキ・アケボノモドキ・アオツリバナ・ヒカゲツツジ・ヒメツルアリドオシ・ヤマソテツ・ツリシユスラン・オオゴカヨウオウレンなども生育。

[特徴]ツガ-サクラツツジ群集。高木・亜高木層のツガ・スギ・ヤマグルマ・アカガシの生育は良いが、樹高 15 ㍉以上のものは風衝被害により樹冠が衰退しつつあり、特にツガは顕著。また、ヤマシグレ・アオツリバナ・ヒカゲツツジなどが出現。

[5年前との比較]ツガ大径木の樹冠が風衝被害により葉の付きが若干劣ってきたが、スギ大径木の生育は旺盛で、高木層の優占種がツガからスギに変化。低木層はハイノキとサクラツツジの生育の良さが目立つ。

4月15日(火)、韓国の山林庁をはじめとする視察者 19 人が当センターを訪問しました。

朝鮮半島の「白頭大幹(白頭山から智異山に続く 1400㍉を超える山脈)」は動植物が調和した生態系をなしており、一行はその生態系の保護と地域住民との関わりについて屋久島の事例を参考にすべく、3泊4日の日程で今回屋久島を訪れたものです。

一行は、屋久島の世界自然

韓国の山林庁職員 屋久島を訪ねる

遺産地域が行政機関と地域住民がどのように関わり管理されているかについて、当



前田所長の説明に耳を傾ける一行

センターのほか屋久島環境文化村センターをはじめヤクスギランドや屋久杉自然館などを視察しました。

当センターでは前田所長がプロジェクトを用い日本の世界自然遺産の現状、屋久島の取組などについて説明しました。

一行からは、国有林と環境省の関係はどのようになっているのか?世界自然遺産となつて課題はあるか?など多くの質問が寄せられました。

おわりに、視察団を代表し山林庁の黄課長から、協力金の制度やシカネットによる対策など学ぶべきことがたくさんありました。親切な説明ありがとうございました。



一同で記念写真

屋久島の植物



ウラジロエノキ (アサ(ニレ)科)

南西諸島から熱帯に分布し、屋久島・種子島が北限。常緑高木。屋久島では低地で見られる。常緑で葉は厚いが少し柔らかく、虫害や台風害で丸裸になることもある。春夏に黄緑色の小さな花を葉脇に多数付ける。果実は黒色。花期は3~9月。

福岡県大野城市議会が ヤクスギランドを視察

4月25日(金)に福岡県大野城市議会議員4人がヤクスギランドの遊歩道施設等を視察しました。

大野城市には、市名の由来となった我が国最古の山城「大野城」や「水城(みずき)」の遺跡があります。

西暦663年に朝鮮半島の百済が唐・新羅の連合軍に攻められ、百済の支援に向かった日本の軍勢は「白村江」の戦いで大敗し撤退しました。唐・新羅の連合軍が日本へ攻めてくることを恐れた朝廷は、太宰府防衛のために全長1・2kmの土塁からなる水城を築き、大野山全体に朝鮮式山城の大野山城を築いたといわれています。

大野城市ではこの広大な遺跡群をつなぐ遊歩道を検

討しており、自然環境に調和した遊歩道整備や地域活性化の取組の参考とするため今回の屋久島訪問となったものです。

当日は突然の豪雨に見舞われましたが、一行はヤクスギランドの50分コースをぶさに観察し、遊歩道の支柱にも木材が使われるなど、自然と調和した木道となっていることに感じ入っていたようでした。



市議会議員一行

今、再び屋久島の地で

屋久島森林管理署長 樋口 浩

昨年の4月、宮之浦港でカラフルな紙テープで見送っていた光景は、今でも強く脳裏に残っています。そして今年4月、再び屋久島の地で勤務できることとなり、縁深いものを感じました。

早速、先日、屋久島環境文化研修センターが主催する「丸ごと屋久島研修講座『里編』」の1日里巡りツアーに参加させていただきました。屋久島1周のバスの旅、西部地域では原生的照葉樹林の中にひっそりと残った炭焼き釜の痕跡。永田地区においては地元手料理や田園風景に触れるなど、屋久島の新たな発見があり、屋久島の里の良さもたくさんあると感じた1日となりました。

国有林は今年、一般会計化2年目となり、正念場を迎える時期となります。地域や時代のニーズを的確に捉え、公益重視の管理経営を推進し、森林・林業の再生を目指して、地域や民有林との連携を図ること、そのため森林共同施業団地など民間連携の取組や新たな木材需要の拡大を通じた循環型社会の実現を目指すことが大きな

課題です。

さらに、屋久島は、世界自然遺産の島として注目度が高く、昨年世界遺産登録20周年の節目を迎えました。世界に誇れるかけがえのない屋久島の森林生態系が、将来にわたり健全な形で引き継がれていくための取組として、アブラギリ等外来種対策、森林等農林業被害が顕著なヤクシカ対策を推進し、生物多様性の確保を図っていくことも重要です。

屋久島も国有林も新たな歩みが始まるこの時期に当地に着任することとなったのも一つの縁と受け止め、国有林の役割の重みを十分に認識しつつ、気負わずに淡々と職責を全うしたいと考えています。



【お知らせ】

瀬切川流域の照葉樹林とヤクタネゴヨウの巨木の森を訪ねる 『第2回国際照葉樹林サミット in 屋久島』プレイベント

平成26年6月6日～8日、「第2回国際照葉樹林サミット in 屋久島」が屋久島で行われます。当サミット実行委員会ではプレイベントとして、林野庁が本年新たに指定したヤクタネゴヨウ自生地（植物群落保護林）においてヤクタネゴヨウの現地見学会を開催します。

日 時：平成26年5月25日（日）9：00～15：00
集合場所：瀬切大橋
参加費：500円
定 員：15名
申込締切：5月20日
申込方法：屋久島町ホームページ
お問い合わせ：屋久島町役場環境政策課 ☎42-0100（内線285）
※歩道が整備されていないため、ある程度山歩きに慣れた方を対象とします。

ヤクタネゴヨウは今や世界で種子島に300本、屋久島に2000本しか生存しないと推定され、絶滅が心配される樹木です。今回設定した保護林はこのヤクタネゴヨウ群落を生態系として保護していくための森林です。

保護林は植生や生態系保護のため通常入林することはできません。また、盗掘や踏み荒らしなどの害が出ないように保護すべき種が特定される情報は公表していませんが、希少種となったヤクタネゴヨウの保護の重要性を広く知っていただくために今回現地見学会を開催することとしました。

【照葉樹林サミットとは】

照葉樹林サミットは、東アジアに分布する照葉樹林の生物多様性やそれが育んできた文化、照葉樹林の保全と利用に関する情報交換を通じて、次世代により良い形で引き継ぐことを目的として平成23年5月に第1回国際照葉樹林サミットが宮崎県綾町で開催されました。

【保護林とは】

国有林の保護林制度は大正4年（1915年）に制定され、来年で100周年を迎えます。全国の国有林の保護林面積は96万5千㊦で、この中には知床、白神山地、小笠原諸島、屋久島の世界自然遺産地域の大部分が含まれます。



直径2㊦近いヤクタネゴヨウ